

日本学術会議
原子力利用の将来像についての検討委員会
(第 23 期・第 2 回) 議事要旨

1. 日 時： 平成 29 年 6 月 22 日 (木) 14:00～15:00
2. 場 所： 日本学術会議 5-C (1) 会議室
3. 出席者： 大西委員長、杉田幹事、花木幹事、井野瀬委員、大政委員、相原委員、中嶋委員、
小森田委員、山地委員、山本委員、入倉委員 (以上順不同)
4. 配付資料：資料 1 前回議事要旨案
資料 2 分科会提言案

参考 1 委員名簿

5. 議 事：

1) 前回議事要旨案について、承認された。

2) 大西委員長より資料 2 により、分科会の提言案について説明がされ、その後、委員による意見交換がされた。

- テクニカルな観点からいくつか申し上げたい。
- 11 頁、2 パラグラフ 「当面、処分された高レベル放射性物質を→「処分された」は削除すべき。
- 12 頁、(2) 2-3 行め、「環境適合性」は「Environment」なのか？
- 13 頁、2 パラグラフ、「原発は 3 基」とあるが、現在は 5 基。確認が必要。
- 13 頁、3 パラグラフ、「導入容量では約 3700kW」時点を入れるべきではないか。その後の「約 7 倍」についても、確認が必要。
- 13 頁、最後から 2 行目、「採算ラインとされる」はなくて良いのでは。
- 「kW」と「kw」が混在しており、「kW」に統一の必要がある。
- 4 頁、2 パラグラフ 「しかし、再稼働の有無に依らずに～」の文章は、より読みやすくされると良いと思う。
- 7 頁、2 パラグラフめについては、本日ご欠席の春日委員より、ご意見をいただいている。「環境疫学の専門家から異論が示されている」とあるが、この異論に対する反論もあるとのこと。ついては、「異論が」を「異論も」にし、文献をつけ足したい。
- 7 頁、2 パラグラフ 「これらを踏まえて、検査の継続と～」の文章だが、何をどのように踏まえるのかがわからない。

- 先ほどの点だが、委員長にて文章を整えられると思うが、例えば、「専門家からは」としてはどうか。
- 「環境疫学の専門家の間で議論がされている」などはどうだろうか。
- 16 頁（3）2 行目、「である、」は「である。」とする。
- 18 頁、下から 10 行目、「原子力発電製造メーカー」に違和感がある。
- 「原子力機器メーカー」か「原子力機器製造社」などだろう。
- 提言とこれまでの内容についての関連がよくわからない。社会倫理について、これまでの議論にあるのに提言にない。そもそも社会倫理についてはコンセプトとして良いのだろうか。
- 社会倫理は、世代間倫理（後世への負担）と現代における社会的公正さに整理できる。
- その内容が「社会倫理」でイメージできれば問題ない。
- 提言との関係だと、提言 5 のあたりに入れられるだろうか。
- 将来をどう考えるかという判断材料として、経済性や安全性などがあるが、そのうちの 1 つとして倫理的判断もある。入れるとすれば提言 5 のところだと思う。
- 提言 5 は経済コストについての提言であるが、例えば「特に」の前に入れるのはどうか。
- 提言 5 は倫理とはなじまないのでは。
- 人材育成のところに入れるのはどうか。
- 提言の冒頭に入れることも考えられる。
- 提言 5 は基本的に経済コストの話であるが、「一方、社会倫理の問題もある」などと入れることが良いと思う。その場合、表題を変える必要もあるかもしれない。
- この部分は宿題としたい。
- 倫理の点について検討し、また、いただいたコメントの反映をするということで、委員会としてこの提言を承認するということがよろしいか。
- 承認された。
- また、今回の議事要旨について、委員へのメールでの回覧を前提として、委員長一任ということによろしいか。
- 委員長に一任された。

（閉会）